

柳澤 健・乾 公美(編)

PNF マニュアル

奈良 勲

(広島大学医学部保健学科理学療法学専攻)

PNF(Proprioceptive Neuromuscular Facilitation: 固有受容性神経筋促通法)は、1940年代後半に医師のKabatがポリオ患者の筋活動を高めるための生理学的理論を構築し、それを受けて1950年代に、理学療法士のKnottとVossによって開発された運動療法の1つである。

PNFの初版は、1956年にKnottとVossによって著され、その後改訂が加えられ、日本語訳も出版されている。

PNFが日本に紹介されたのは、1970年代前後であったと思うが、当時はファシリテーション・テクニックという代名詞の中に含まれていた。その後、神経生理学的アプローチと呼ばれる種々の運動療法の1つとして分類されている。

私は米国の大学の授業でPNFを学び、Knottによる講習会も受講した体験がある。本来PNFは脊髄性疾患を対象にして開発されたが、現在では中枢・末梢神経、スポーツ傷害などを対象に幅広く活用されている。

さて、今回出版された本書「PNF マニュアル」の著

者らのほとんどは、米国のKaiser財団病院リハビリテーションセンターでPNFを長期講習を受け、PNFに関する臨床・研究に精通した方々である。

本書は、以下に示す7つの大項目で構成されている。

- I. PNFの概要、定義、基本要素
- II. 促通要素
- III. PNFで用いられる基本手技
- IV. 特殊テクニック
- V. 評価と治療プログラムの立案
- VI. PNFの臨床応用
- VII. 疾患別PNF

本書の特徴としては、第1に、PNFに関連した生理学、運動学などの文献引用により、手技の科学的背景を明らかにしようとする姿勢が伺われる。第2に、手技ごとに図表を加え、かつ写真を沢山提示してあるため理解しやすい。第3に、疾患別のPNFとして、それぞれの手技の目的を具体的に提示しながら解説してあるため理解しやすいことなどである。

これらのことから、本書はPNFの原本では得られない知識を吸収することができると思われる。また、製本上の工夫として、ページ印刷が紙面の横に記載しており、ページを探索しやすい。本書に注文を付けるとすれば、「PNFの臨床応用」のページ数をもう少し増やして解説して頂くと、より臨床に活用しやすくなると感じる点である。

● B5判 頁192 定価(本体3,800円+税) 2001
南江堂・刊